

第5章 環境影響要因の把握

5.1 環境影響要因の抽出

対象事業の実施に伴う環境影響要因を表5.1-1に示す。

表5.1-1 環境影響要因

区分	環境影響要因
工事による影響	<ul style="list-style-type: none">・建設機械の稼働及び工事用車両の走行により、大気汚染物質が発生する。・建設機械の稼働及び工事用車両の走行により、騒音、低周波音、振動が発生する。・工事敷地から周辺河川への雨水の流入により、水質汚濁が発生する。・樹木の伐採、土地の改変により、陸上植物へ影響を与えるおそれがある。・樹木の伐採、土地の改変、建設機械の稼働及び工事用車両の走行により、陸上動物、生態系へ影響を与えるおそれがある。・工事敷地から周辺河川への雨水の流入により、水質汚濁が発生し、水生生物の生息環境へ影響を与えるおそれがある。・樹木の伐採、土地の改変により、景観・風景が変化する。・工事車両の走行により、人と自然との触れ合いの活動の場の利用者に影響を与えるおそれがある。・基礎の掘削により、残土が発生する。・建設機械の稼働及び工事車両の走行により、温室効果ガスが発生する。
存在・供用による影響	<ul style="list-style-type: none">・送電線路の存在により、景観・風景が変化する。

5.2 環境要素の抽出

前章で抽出した環境影響要因と環境要素との関係を表 5.2-1 に示す。

表 5.2-1 環境影響要因と環境要素との関連

環境要素の区分	環境影響要因の区分	工事による影響	存在・供用による影響
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	大気汚染	○	
	悪臭		
	騒音	○	
	低周波音	○	
	振動	○	
	水質汚濁	○	
	水象		
	地盤沈下		
	土壌汚染		
	地形・地質		
	日照阻害		
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	陸上植物	○	
	陸上動物	○	
	水生生物	○	
	生態系	○	
人と自然との豊かな触れ合いの確保	景観・風景	○	○
	人と自然との触れ合いの活動の場	○	
環境への負荷の量の低減	廃棄物・発生土	○	
	大気汚染物質・水質汚濁物質		
	温室効果ガス等	○	
一般環境中の放射性物質	放射線の量		